

Evening ER Seminar（名古屋）参加報告

京都第一赤十字病院 放射線診断科部 澤 悟史

令和5年10月29日、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院にて日本救急撮影認定技師機構主催の救急撮影講習会が開催され、受講いたしました。

イブニングセミナーのため、開催時間が遅かったことやJSRT秋季大会の最終日ということもあって正直参加を迷っていたのですが、先のJSRT秋季大会でも藤田医科大学病院の船曳知弘先生の造影剤の安全性に関するご講演を拝聴したこともあり友人を連れ立って参加してみることにしました。

先に船曳先生による「一步先行く外傷画像検査のミソ」というタイトルで講演が始まりました。著名な先生ですのでこれまでも何度か拝聴したことがありましたが内容が常にアップデートされていました。中でも最近の外傷PANスキャンは単純を省略することが多く、私自身がかつてJERTの研究班として携わった外傷PANスキャンの現状調査報告と比べても随分と取り巻く環境が変わり、今後救急外傷CTにも仮想単純画像や物質弁別などの技術が導入・普及していくと感じました。1時間ほどの講演でしたが船曳先生の救急外傷に対する熱いが伝わる内容でした。

続いて防衛医科大学校病院の霧生信明先生の「銃創・爆傷について その原理とマネジメント」はとても刺激的でした。貫通した銃弾がいかに周囲組織を破壊していくか、ターニケットと呼ばれるツールを用いた止血法、テロ災害時の救急搬送体制、爆弾による衝撃波がどのように人体を破壊するかなど動画を交えて紹介され、過去の銃乱射事件やテロ災害などの経験から培われた米軍兵士養成トレーニングを受けた先生の講演は非常に衝撃的でした。日本では滅多に遭遇しない銃創・爆傷ですが昨今の世界情勢を考えると決して無関係ではなく、医療従事者だけでなく国民全体が有事に備える必要があると感じました。

衝撃的な映像が続くので惨事ストレスに弱い方は注意が必要ですが、参加人数が少なかったことが非常に残念でなんとも贅沢で、対面ならではのセミナーでした。今後もJERTの講習会等で講演いただく機会があればきっと満足いただける内容で是非とも多くの方に聴講し意識していただきたいと思いました。